

えのき ぶん か ほ ぞん かい

# 榎文化保存会

平成24年(2012)、大正9年(1920)生まれの菊武トリさんは、先々のことを心配して、隈磨公のお墓を榎区で守って頂けないかと相談しました。そこで榎区では、役員らを中心に構成する榎文化保存会を立ち上げ、隈磨公のお墓を守っていくこととなりました。

榎文化保存会では、地域子ども達に隈磨公の墓の存在とその物語を伝えると共に、菊武賢太郎さん・トリさんを中心に、周辺の榎区の先人の方々によって維持管理し、守られてきたこれまでの取り組みを広めていき、榎区の文化遺産として「歴史とロマン」をこれからも語り続けたいと思います。

## <隈磨公のお墓の世話>

- ・ 周囲の清掃  
掃除に使う大きな熊手は、毎年2本、太宰府天満宮から提供されています。
- ・ 柳を供える。
- ・ 太宰府天満宮によって行われる4月15日と7月15日の祭事「隈磨公 春・夏祭り」の協力



春祭り  
(平成25年4月15日)

## 太宰府市民遺産とは・・・

市民の一人ひとりが、大切に思うモノ・人・出来事。これを将来に伝えていきたいと思う物語と、守り育てる活動に対して、多くの市民が太宰府にとって大切なだと納得したものです。

太宰府市民遺産(太宰府市景観・市民遺産会議で認められた宝)  
=守り・育てたいモノ + 守り・育てたいモノが歩んできた物語 + 守り・育てたい「ちから(活動)」



## ■例えば

- まちづくりの基礎をつくりあげた人
- 四王寺山の堂々たる姿が見える場所
- いつもお詣りしているお地蔵さん
- 道ばたにある、むかしの道標
- おばあちゃんがやってる数珠くり
- 40年つづく団地の夏まつり

など、将来に伝えたい太宰府の個性がたくさんあります。



太宰府市民遺産ロゴマーク  
<http://市民遺産.jp>

## 隈磨公のお墓 太宰府市民遺産：第7号

認定：平成25年3月20日  
景観・市民遺産育成団体：榎文化保存会  
発行：太宰府市教育委員会  
太宰府市景観・市民遺産会議  
発行日：平成25年6月8日



## 太宰府市民遺産

第7号

# 隈磨公のお墓



榎文化保存会

# 隈麿の墓(奥都城)の由来

昌泰4年(901)1月、右大臣だった菅原道真は、左大臣藤原時平の謀略によって都から大宰府へ左遷されました。この時道真は、まだ幼かった紅姫と隈麿の二人の子を連れてきたといわれています。十分な食事のままならない苦しい生活の末、隈麿は大宰府に來た翌年の秋、病のために亡くなってしまいます。道真は息子を失った悲しみを、漢詩「秋夜」の中に詠っています。

秋夜  
床頭展轉夜深更  
背壁微燈夢不成  
早雁寒蛩聞一種  
唯無童子讀書聲  
童子小男幼字  
近曾天亡

【現代意訳】  
秋の夜  
寝床で寝返りを打つだけで  
夜は更けてゆく  
壁には淡いともしびが揺らぎ  
夢をみることもできない  
時期より早い雁と季節外れのゴオロギが  
鳴く声は聞こえるが  
息子が読書する声だけが聞こえない  
童子とは息子の幼名の通称  
この子は最近早死にした



隈麿の墓

隈麿の墓と伝えられるものが、榎区の納骨堂の敷地内にあります。昔から、墓の傍らには六弁の花をつける梅の木が植えられていました。また、墓に供えられた榎が枯れると誰かが新しい榎を供えるというように、永い間、榎区の住民たちによって世話が続けられてきました。

明治初期の『福岡縣地理全誌』には「隈麿墓 村ノ西南一町餘。圃中ニアリ。自然石ヲ立テリ。長七八尺許。梅樹アリ。其所ノ字ヲ総テ。隈ノ前ト云。(中略)。配所ニ到リ幾ナラスシテ薨ス。時ニ。此ニ埋葬スト云。」と記されています。

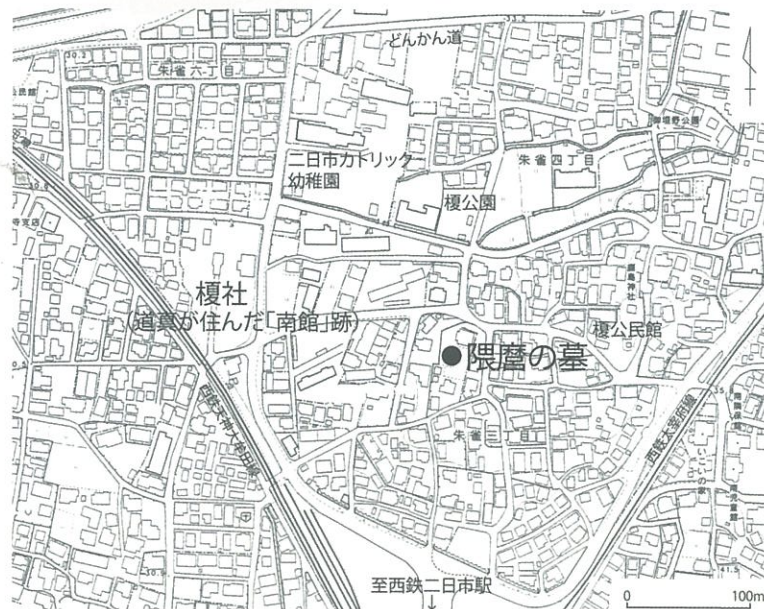
# 隈麿の墓と菊武夫婦

菊武賢太郎さん・トリさん夫婦は、隈麿の墓の隣地に住んでいる縁から、隈麿の墓の世話をするようになりました。昭和60年(1985)には、賢太郎さんが自費で墓のまわりの玉垣をつくり変え、それに合わせて太宰府天満宮が墓に覆屋を建てました。この時、太宰府天満宮から賢太郎さんに感謝状が贈られました。

平成3年(1991)に賢太郎さんが亡くなられてからは、妻のトリさんが隈麿の墓の世話を続けてきました。毎日欠かさずことなくお墓の周囲を掃除し、榎がしおれてくると庭の榎を取って新しく供えています。庭の榎の木は賢太郎さんが隈麿の墓に供える榎を得るために植えたもので、今では3mを超える高さになっています。

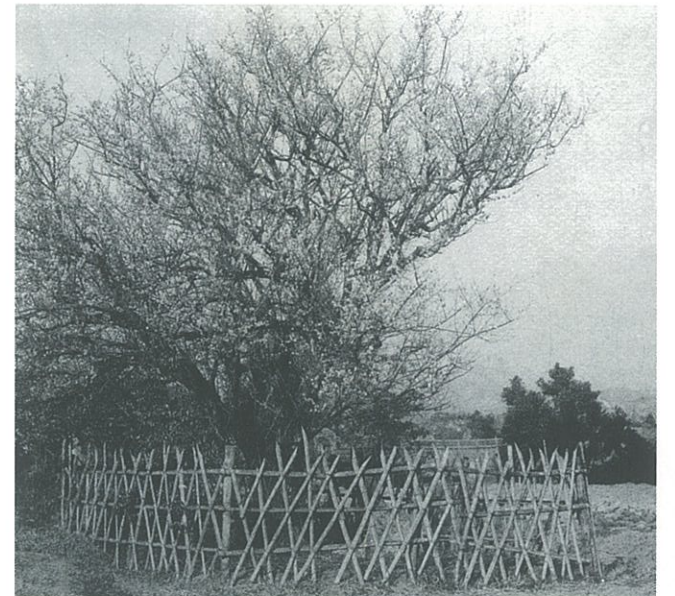


隈麿の墓と菊武賢太郎さん(昭和41年)



# 六弁の梅

六弁の花びらを付けるこの梅は、かつて幹がひと抱えあるほどの大木で、枝も大きく広がっていました。初夏には一斗五升(約27ℓ)の梅の実が採れ、その実を榎区が入札を行い、区の収入としていました。しかし、老木だった梅は昭和30年代に枯れてしまいます。そこで、菊武賢太郎さんは、自分の畑に育てていたその梅の種から芽生えた梅を、墓の横に植えなおしました。それが、現在の六弁の梅です。先代に比べると六弁の花びらは少なくなりましたが、2月初旬頃には隈麿の墓を覆うように、きれいな花を咲かせます。現在菊武トリさんの畑には、今の六弁の梅の種から芽生えた梅が育っています。



先代の六弁の梅と竹柵に囲まれた隈麿の墓(戦前)



現在の六弁の梅と隈麿の墓